



神奈川県本部第39回委員会を開催！ 要求と組織の前進めざす春闘方針決定

2月3日（日）、建交労神奈川県本部は横浜開港記念会館で第39回委員会を開催しメインスローガンに“安倍9条改憲阻止へ国民的共同を広げよう！全組合員の要求を汲み尽くした春闘を展開しよう”を掲げ、サブスローガンでは“建交労結成20年・運動の成果を経済闘争・組織建設に活かそう”と呼びかけた2019年春闘方針を決定して春闘本番に向けた意思統一をはかりました。

委員会には神奈川ダンプ支部、横浜事業団支部、神川鉄道地方本部、川崎学童保育指導員支部、神奈川県南支部の各支部から選出された委員と執行部併せて27名が出席し、そのうち神奈川県南支部からは県本部役員3名と委員9名の合計12名（三昭運輸分会4名、内外液輸分会2名、高橋運輸分会2名、合同分会2名、田中製菓分会1名、扶桑運輸分会1名）が出席して委員会の成功に貢献しました。

開会挨拶をおこなった大島副委員長（県南支部書記長）は、9条改憲を狙う安倍政権に対する国民的な共同や沖縄県民のたたかいなどの情勢にも触れて2019年春闘への決起を呼びかけました。議長には県南支部の佐藤貴司執行委員（内外液輸分会分会長）が選出されて議事を進行しました。



開会あいさつをする大島県本部副委員長

春闘での職場要求と組織拡大の実現にこだわって 全労働者を視野に要求書はビラのように活用を！

執行部を代表して主催者挨拶を行った伊藤委員長は、2019年春闘に向けた職場組織



主催者あいさつを行う伊藤東一委員長

の構えについて「組織拡大は待ったなしの危機的状況となっているが、組織拡大には要求を実現する春闘展開が不可欠であり、全ての組織が全ての労働者を視野に統一要求と職場要求を掲げて統一闘争に結集すること、要求書はビラのように活用して職場の全労働者に知らせ職場の雰囲気を変え闘争の主導権を握ること、そのためにも春闘アンケートを徹底して広げることが決定的に重要」などといった“問題提起”を行って仲間の奮起を促しました。

全組合員が参加する原則的な春闘を提起！ 提案にかみ合った委員の発言で方針に確信！

つづいて高橋書記長が 2018 年秋季年末闘争の到達点に触れながら 2019 年春闘方針(案)を提起しました。提起された春闘方針(案)は、建交労中央本部が 1 月 26 日～27 日に開催した第 20 回中央委員会で決定した 2019 年春闘方針を基本に、神奈川県本部の現状を踏まえながら全組合員が参加する春闘構築に力点を置くなど労働組合運動の原則的な闘争を強調する内容です。

この高橋書記長の方針提起を受けて全体討論に入りました。発言のトップバッターに立った県



春闘方針を提起する県本部の高橋書記長



支部大会で発言する内外の本間代議員

つづいて発言した神奈川ダンプ支部マイシィスタッフ分会の柴田委員は「分会は今年、昨年を大きく上回る要求アンケートを回収して組合員拡大につなげている。そのアンケート結果に基づいて練り上げた要求書は既に 1 月 17 日にユーコープ理事会に提出し、2 月 5 日には回答が提示されて 2 月 7 日に団体交渉を行う予定」と、この間の運動に確信を深めて力強い報告と決意を表明しました。

つづく川崎学童保育指導員支部の峰松委員は、川崎市の放課後児童健全育成事業（わくわくプラザ事業）によって、自主運営を余儀なくされている学童保育の運営と指導員の状態改善に向け、川崎市による国庫補助の適用獲得を含めて奮闘する決意を述べました。

最後に発言をした神奈川県南支部三昭運輸分会の山崎委員は、県労働委員会でのたたかいの到達点を報告すると同時に県労働委員会の問題点を告発して労働委員会での勝利命令を勝ちとる決意を表明して仲間の支援を訴えました。また、三昭運輸に介入して労使関係を悪



発言する三昭運輸分会の山崎委員



団結がんばろうを唱和する仲間

化させてきた悪質社労士を排除するたたかいでは日本共産党の高橋千鶴子衆議院議員事務所の協力も得て明確な成果を上げていることも報告しました。

全体討論を受けた高橋書記長は原則的な運動が要求前進と組織拡大に結びついていることを指摘する“まとめ”の発言を行い、提起された議案は満場一致で採択され、斎藤書記次長（県南支部副委員長）の閉会挨拶、清野執行委員（県南支部副委員長）の“団結がんばろう”で委員会は成功裏に閉会しました。